

イチゴの病害虫の発生状況（4月上旬）

1 うどんこ病

発生ほ場割合は、平年並でした（図1、図2）。発生程度が高いほ場では、果実への発生も確認されています。多発すると防除が困難になるので、発生初期から防除を実施してください。

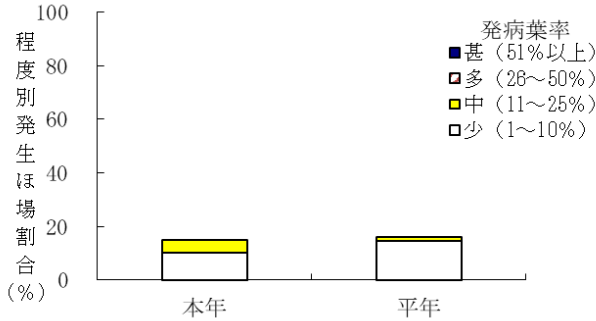


図1 うどんこ病（葉）の発生状況

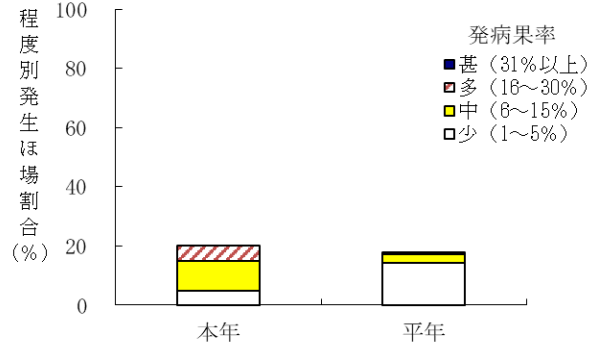


図2 うどんこ病（果実）の発生状況

2 灰色かび病

発生ほ場割合は、やや高い状況でした（図3）。本病害は湿度が高いと発病しやすくなります。発病果やり病した果梗、老化葉などは、ハウス内に放置せずほ場外に持ち出して処分してください。

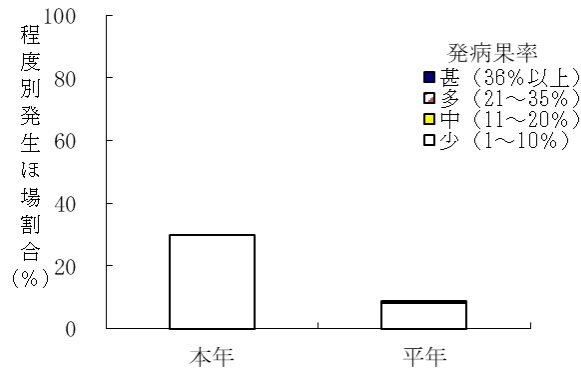


図3 灰色かび病の発生状況

3 アブラムシ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。寄生密度が高くなると、排泄物によりすす病が誘発され、果実汚れが生じるので、発生を確認した低密度時から薬剤防除を実施してください。

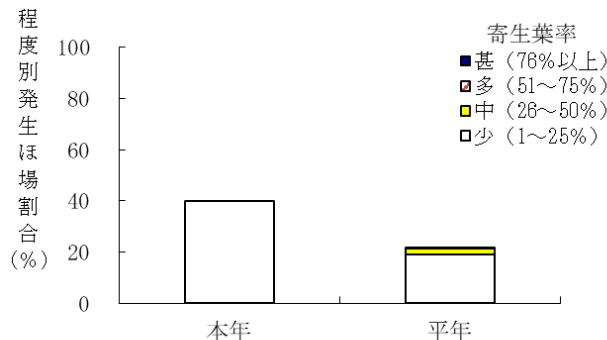


図4 アブラムシ類の発生状況

4 ハダニ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください。薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤を選択してください。また、ハダニ類の防除にチリカブリダニやミヤコカブリダニなど天敵資材を放飼している場合には、天敵資材に影響の小さい薬剤を選択してください。

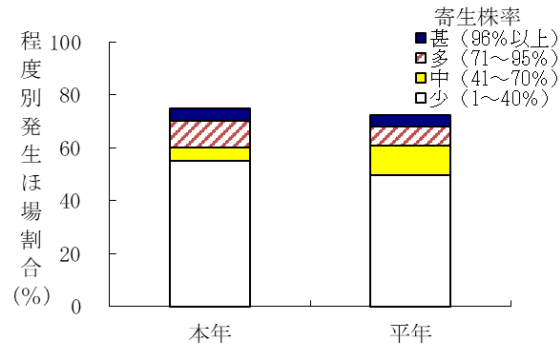


図5 ハダニ類の発生状況

5 コナジラミ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。寄生密度が高くなると、排泄物によりすす病が誘発され、果実汚れが生じるため、低密度時から防除を実施してください。また、ラノーテープを使用している場合でも、寄生密度が高いほ場では防除を実施してください。

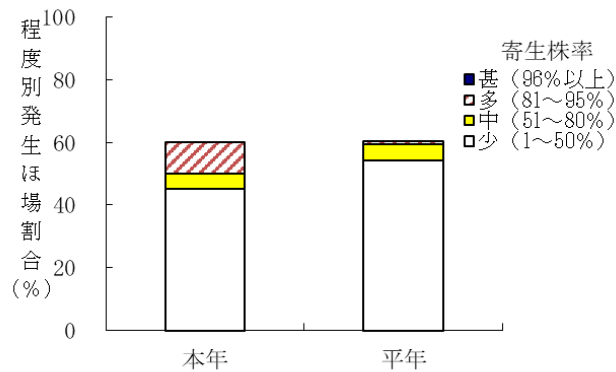


図6 コナジラミ類の発生状況

6 アザミウマ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図7）。寄生密度が高くなると被害果が発生します。開花中の花をよく観察して、寄生が確認される場合は低密度時から防除を実施してください。

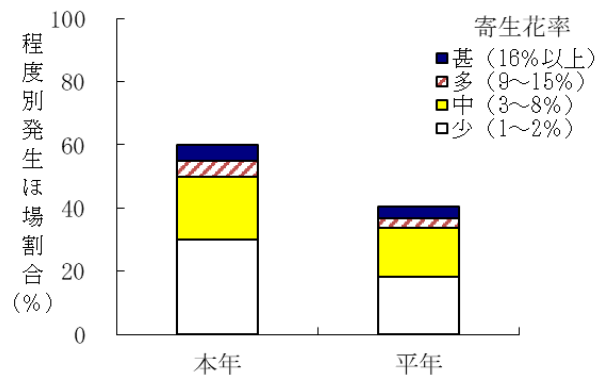


図7 アザミウマ類の発生状況

注意が必要な病害虫

■ハスモンヨトウ

イチゴのほ場において、ハスモンヨトウの寄生及び株の加害が確認されています。主な被害は葉の表面を食害で、生育を妨げます（写真1、2）。ほ場をよく確認し、寄生が確認された場合には速やかに防除を実施しましょう。

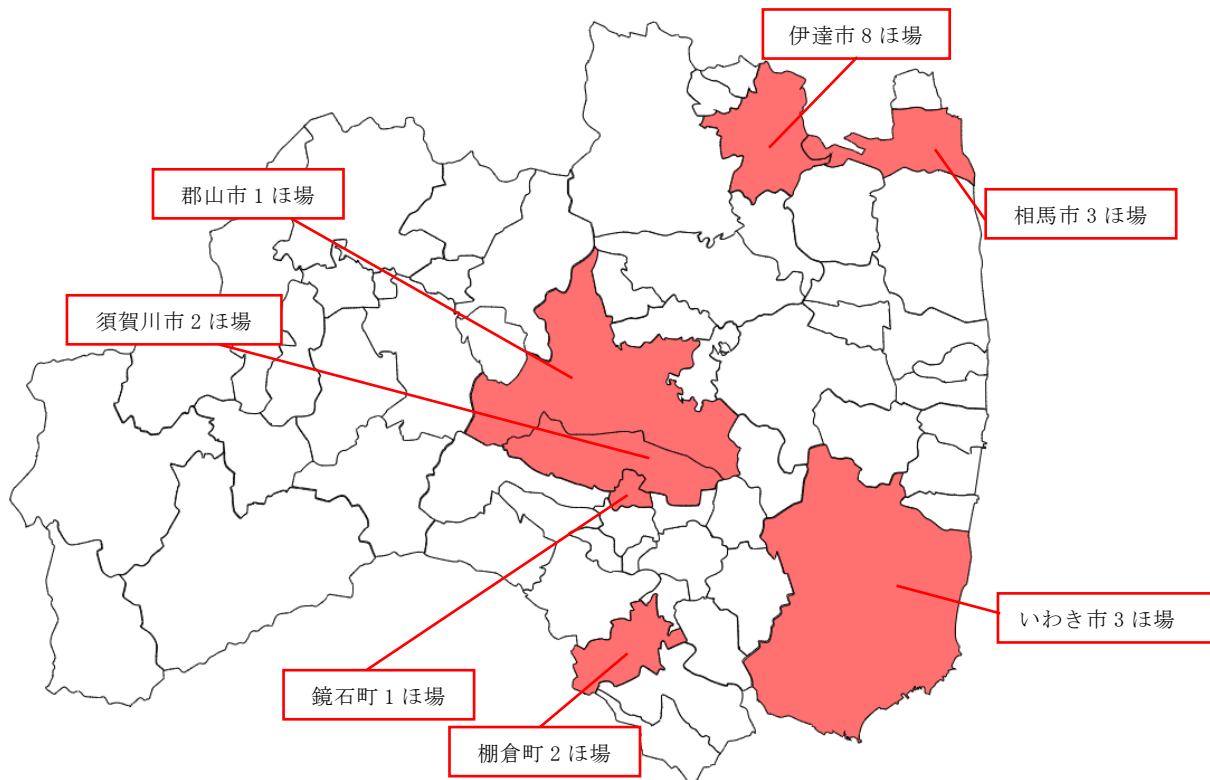


写真1 葉に寄生するハスモンヨトウ幼虫



写真2 被害葉

※イチゴの巡回調査では、下記の20ほ場を調査しています。



● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 Mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp